

【学校教育目標】 豊かな心を持ち、夢の実現に向かって自律的に活動する久里の子の育成

～ 元気・笑顔・思いやりがあふれる学校 ～



久里の子

唐津市立久里小学校 学校だより

R 7年 7月2日号

文責： 渡辺 謙 学校HP →



平和集会 6年生からの発表を見せていただいて

7月2日(水)、久里小学校の平和集会を行いました。暑さが厳しかったので、1時間目の時間帯に、時間を短縮して実施しました。



6年生の発表を見て

6年生のみなさんへ。本当は、その場で感想をもっと言いたかったのですが、暑い中ということもあり、「4月の姿から、さらに成長していて立派でした」ということのみ伝えました。ここでは、もう少し長く感想を書きます。読んでください。

まず、全校の子供たち、そして先生たちが、6年生の発表にじっと顔を上げて聞き入っていました。普段は、下を向いていて、手あそびをしたりしている人もいますが、そういった子供は、私が見る限り0人でした。それだけ、6年生のみなさんの発表の迫力に、みんなが惹きつけられていたのだと思います。一生懸命に何かをしようとする姿は、それだけで人を惹きつけます。みなさんの発表には、その一生懸命さがにじみ出ているということだと思います。

長崎へ修学旅行に行ったのは、早いもので、もう一月以上前になりました。長崎の町で、長崎市の平和への思いと文化について、たくさん身をもって経験してほしいと思って送り出しました。帰ってきてからは、個人やグループで調べたことをまとめる学習に取り組んでいる様子も見ました。6月8日の教育の日には、保護者に向けて発表もしていましたね。

そういった、これまでの学びの積み重ねが今日の発表ではなかったかと思います。被爆し、水を求めてさまよっていた人たちの思いが彫り込まれた石碑や、自分の怪我を顧みず、怪我人の治療に奔走した永井博士の家「如己堂」の名前の由来。こういったものは、実際に自分が、その場所に足を運んで見てきたからこそ、久里小のみんなに訴えかけてくる力があってのではないかと思います。今日発表したことを、これからも心の片隅において、大人になってくれるとよいなと思っています。

久里小学校に通っている子供たち、そして働いている先生たち誰一人として、戦争を経験している人はいません。だからこそ、戦争や平和について学び、当たり前の日常がどれほど大切なのかを感じることが必要なのだと思います。

今日は、そのきっかけを作ってくれた6年生に心からお礼を言いたい気持ちです。ありがとうございました。